

カワラゴミシ

Omophron aequalis (コウチュウ目カワラゴミシ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの大きさが 5.5～6.5 mm ぐらいの種類です。からだは平たい円形で細長い足を持つ変わったかたちをしています。からだの色はクリーム色で黒っぽい緑色の紋もんがあります。

Ⅰ すみ場所

北海道・本州・四国・九州ぶんぶに分布しています。おもに海岸かわらや河原の砂地にすんでいて、特に広い砂地を好みます。

Ⅰ 生活のようす

成虫せいちゅうは年1回、6月下旬～9月げじゆんにみられ、夜間、明かりに飛とんできます。成虫せいちゅう、幼虫ようちゅうとも肉食にくしよくで、小さな虫などを捕つかまえて餌えさとします。

参 考

おもに河原かわらにすんでいるため、河川環境かせんかんきようと関わりを強く持った虫のひとつです。また、川の工事こうじなどにより数へが減っているため、「長野県版レッドリスト」で「準絶滅危惧」に選定せんていされています。

ガムシ

Hydrophilus acuminatus (コウチュウ目ガムシ科)



撮影：大野 豊

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの大きさが 33～40 mm ぐらいで、日本では最も大きなガムシです。からだのかたちは長い卵形です。色は黒色ですが、水の中では緑色をおびてみえます。

Ⅰ すみ場所

北海道・本州・四国・九州ぶんぶに分布しています。おもに水草が生えている池沼しつち、湿地、水田などの流れのない水の中にすんでいます。

Ⅰ 生活のようす

成虫せいちゅうは春～秋にかけてみられ、夜間に明かりに飛とんできます。成虫せいちゅうと幼虫ようちゅうで食べるものが異ことなり、成虫せいちゅうはおもに水草みずくさを、幼虫ようちゅうは小さな虫などを捕つかまえて食べます。成虫せいちゅうで冬を過すぎします。

参 考

池沼などのすみ場所げんしょうの減少へにより数なが減ってきているため、「長野県版レッドリスト」で「準絶滅危惧」に選定せんていされています。

ミヤマクワガタ

Lucanus maculifemoratus (コウチュウ目クワガタムシ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさ(大あごの先まで)はオスが27～51mm、メスが25～40mmぐらいの大きなクワガタで、オスの大あごも立派です。からだの色はオスが黒色から黒褐色、メスは黒色です。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。おもに丘陵地から山地の広葉樹林や河原のヤナギ林などにすんでいます。

I 生活のようす

成虫は年1回、6～8月にみられますが、成虫で冬は越しません。クヌギやコナラ、ヤナギなどの樹液に集まったり、夜間に明かりに飛んできたりするのをよく見かけます。幼虫は広葉樹林内の朽ち木の中にみられます。

参 考

ノコギリクワガタと並んで比較的普通にみられるため、昔から子供たちに人気のあるクワガタです。最近では以前ほどみられなくなっています。

ヒメオオクワガタ

Nipponodorus montivagus (コウチュウ目クワガタムシ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさ(大あごの先まで)はオスが26～38mm、メスが25～35mmぐらいの大きなクワガタです。オスの大あごは太短く、中央前に斜め内側上方に向く1本の大きな歯があります。からだの色は黒色で輝きはありません。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。おもに山地から高地(標高800～1500m)の森林、特にブナ林に多くすんでいます。

I 生活のようす

成虫は6～9月にみられますが、9月に最も活発に活動します。いろいろな木の樹液に集まりますが、特にヤナギに集まります。メスは夜間に明かりに飛んできたりします。幼虫はブナやミズナラの太い倒木から発見されます。

参 考

ブナやミズナラ林などの自然がよく残された森林環境を代表するクワガタです。「長野県版レッドリスト」で「準絶滅危惧」に選定されています。

マヤサンコブヤハズカミキリ

Mesechthistatus furciferus (コウチュウ目カミキリムシ科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさが 12～18 mmのカミキリムシです。からだの色は暗い褐色で、はねの中央の後ろに黒い点があります。からだは堅く、はねの先が鋭くとがります。

I すみ場所

本州の北陸・中部地方西部・近畿地方北部に分布しています。おもに山地のブナ林などにすんでいます。

I 生活のようす

成虫は夏から秋にかけて出現し、そのまま成虫で冬を過ごします。卵は初夏に、ブナ、ハンノキ、トチノキ、ヤナギ類などの倒れた木に産まれます。成虫は、左右のはねが中央でくっついていて飛ぶことはできません。

参 考

ブナやミズナラ林などの自然がよく残された森林環境を代表する虫です。また、飛ぶことができないことから、すんでいる場所が狭く、この地方は重要な生息地となっています。

ハンノキハムシ *Agelastica coerulea* (コウチュウ目ハムシ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは5～8mmぐらいの小さなハムシです。からだの色は、黒っぽい青色です。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州・佐渡島などに分布しています。河原や湿地などに生えるハンノキにすんでいます。

I 生活のようす

成虫は春～夏に発生し、ハンノキの葉の上にとまっている姿をよくみかけます。成虫、幼虫ともに、おもにハンノキ類の葉を食べます。

参 考

河川の溪流に沿って生育するハンノキ類を食べるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。

クルマハムシ *Gastrolina depressa* (コウチュウ目ハムシ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは 6.8～8.5 mm ぐらいのハムシです。からだは平たく、色は青紫色で、
胸の両側は赤褐色です。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。おもに河原や湿地などに生えるクルマ類
にすんでいます。

I 生活のようす

成虫は春～夏に発生し、特に5～8月に多くみられます。成虫、幼虫ともに、オニグ
ルミやサワグルミなどの葉を食べます。

参 考

河川の溪流に沿って生育するクルマ類を食べるため、河川環境と関わりを強く持った
虫のひとつです。

オオスズメバチ *Vespa mandarinia* (ハチ目スズメバチ科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは女王バチが 43～45 mm ぐらい、はたらきバチが 27～40 mm の日本で
一番大きなスズメバチです。からだの色は黒色で黄色の紋があります。刺す針は女王
バチとはたらきバチが持っています。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。平地から低い山にかけての林やそのま
わりに普通にみられ、巣はおもに土の中などに造られます。

I 生活のようす

女王バチは4月から、はたらきバチは7月から、オスと新しい女王は 10 月ごろから
出現します。巣のピーク時にははたらきバチの数が 300～500 匹に、大きさは直径 2
m にもなります。いろいろな虫を餌にしたり樹液にも集まります。

参 考

オオスズメバチはスズメバチの中では最も大きく、攻撃性も強く危険です。樹液にきて
いるものをよくみかけますが、それらからは特に逃げる必要はありませんが、餌がな
いのにたくさん見かける場合は、近くに巣がある可能性があるためその行動に注意
し、刺激を与えないようにして、そこから立ち去ることが必要です。

キイロスズメバチ

Vespa simillima (ハチ目スズメバチ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは女王バチが 25～28 mm ぐらい、はたらきバチが 17～24 mm です。からだの黄色の紋が発達していて、全体黄色のものもみられます。刺す針は女王バチとはたらきバチが持っています。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。スズメバチの中では平地から低い山にかけて最も普通にみられ、巣は木の枝、ガケ、軒下、土の中などに造られます。

I 生活のようす

女王バチは5月から、はたらきバチは6月から、オスと新しい女王は 10 月ごろに出現します。巣はスズメバチのなかでは最も大きくなり、ピーク時にははたらきバチの数が 400～1400 匹に、巣の大きさは直径 40～80 cm にもなります。おもにいろいろな虫やクモなどを餌にしたり樹液や花にも集まります。

参 考

キイロスズメバチはスズメバチの中では最も普通で、攻撃性も強く危険です。花にきているものをよくみかけますが、それらからは特に逃げる必要はありませんが、餌がないのにたくさん見かける場合は、近くに巣がある可能性があるなのでその行動に注意し、刺激を与えないようにして、そこから立ち去ることが必要です。